

繁殖部会のこれから

受胎率向上のために

前回の部会長の話を受け、以前にもかけはしで紹介しました乳牛への追い移植について、再度書かせて頂きます。

一般的に健康な牛達の人

工授精の受胎率は経産牛で約50%、未経産牛で約60%と言われていましたが、近年、徐々に低下する傾向が見られ、経産牛では40%前半、未経産でも50%半ばまで低下して来ています。

人工授精では正常範囲と言われる3回までで経産・未経産牛合わせて約85%の牛が受胎していますが、残りの約15%がリピートブリダー牛(多回授精牛)として治療などの対象になっていきます。組合員さん方

の牛舎の中にも、毎回発情徴候がはっきりしていて人工授精をしても、なぜか種り返す牛が何頭かいると思えます。

このような牛に対して人工授精後5日目でのhCG注射などのホルモン剤投与、子宮内薬液注入などの治療が行われています。

この様な治療をしても受胎しない牛では、卵管等の狭窄、癒着などの異常が考えられ、せっかく受精した受精卵が卵管のつまり等で子宮まで到達しない為に妊娠しないと考えられています。

この様な原因が疑われる牛に対して近年、受精卵移

植、特に追い移植が有効な方法として普及して来ています。

現在、釧路地区NOSA I授精所で乳牛に対して行っている追い移植の方法は、発情が来てしまったりピートブリダー牛に黒毛和種精液を授精し、授精後7日目に授精時と同一の種雄牛で作ったF1体外受精卵を移植することです。

一般的には経産では空胎5ヶ月以上、未経産では初産分娩月齢が27ヶ月を超えると経済的にマイナスになってしまふと言われるので、追い移植の効果的な実施時期として経産牛で分娩後5ヶ月、未経産牛で5回目の受精回数をめどと

して行う事をお勧めします。

また以前に、厚岸診療所で受精卵移植予定牛へ排卵後5日目にhCGを注射する試験が行われ、結果として移植をすることが出来た牛がそれまでの40%台から60%台まで向上しました。

受胎率については変わらなかったのですが、移植出来る事で妊娠する頭数が増えた事から、追い移植牛への使用も徐々に広まっています。

追い移植は本牛を分娩させ搾ることを目的に和牛を授精しF1受精卵を移植する為、F1牛しか生まれず後継牛を作ることとは出来ません。しかし、追い移植をした牛の約50%(90日NR)が受胎している事から、せっかく手間とお金をかけて育てて来た牛を種が止まらないうちに、是非試してほしい技術だと思っています。

繁殖部会では今後も、組合員さんの経営の根幹である繁殖改善の手助けが出来様、獣医師、授精師の情報交換、学習活動が続けて行きます。

事業部改良課

村井浩之